

平成28年度 当初予算（案）

主な事業の説明書

建設部

款	項	目	大	事業	ページ
6	1	9	10・11	国土調査事業費（補助・単独）	6－1
8	2	1	15	市道敷地対策費	6－2
8	2	1	17	道路情報管理システム整備事業費	6－3
8	2	2	10・11	道路維持管理費（単独・債務負担行為）	6－4
8	2	2	12	除雪対策費	6－5
8	2	2	13	道路維持管理費（社会資本整備総合交付金事業）	6－6
8	2	2	14	除雪機械購入費	6－7
8	2	4	32・40	道路改良事業費（単独・社会資本整備総合交付金事業）	6－8
8	2	6	15	橋りょう長寿命化対策事業費（社会資本整備総合交付金事業）	6－9
8	2	8	1・2	交通安全施設整備費（単独・債務負担行為）	6－10
8	2	8	6	通学路歩道整備事業費（社会資本整備総合交付金事業）	6－11
8	3	1	11	都市計画マスタープラン等策定経費	6－12
8	4	1	11	市営住宅維持管理費	6－13
8	4	1	20	住宅リフォーム支援事業費	6－14
8	4	2	10	地域住宅整備事業費	6－15
8	7	1	10	公園維持管理費	6－16
8	7	3	11	河川公園管理費	6－17
8	7	4	10	市民ゴルフ場管理運営費	6－18
9	1	4	11	水害対策費	6－19
[土地区画整理事業特別会計]					
1	1	1	10・11	大曲駅前第二地区土地区画整理事業費（補助・単独）	6－20

※部毎に款・項・目・大事業の順番とする。

事 業 説 明 書

6 款 1 項 9 目 10・11 事業

(施策の大綱) 市街地の整備

(施策) 計画的な開発の推進

(基本事業) 土地利用計画の推進

継続

課所名： 建設部 道路河川課

『事業名』 国土調査事業費（補助・単独）

【28年度】	27,598 千円	【27年度】	28,731 千円	【増減額】	△ 1,133 千円
補助	23,400 千円	【27年度】	22,670 千円	【増減額】	730 千円
単独	4,198 千円	【27年度】	6,061 千円	【増減額】	△ 1,863 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
11,700	5,850			10,048

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

国土の開発及び保全並びにその利用の高度化に資するとともに、合わせて地籍の明確化を図ることを目的とする。

地籍調査の成果である地籍図を作成し、公共土木・土地改良・農業構造改善・都市計画・総合開発・宅地造成の事業に利用するとともに土地の権利関係の明確化・公租公課の公平化・不動産登記簿の整備を図ることを目標とする。

●目標

地域	進捗率	(平成28年度末までの進捗率)
西仙北	79.9%	
協和	86.2%	〃
太田	78.7%	〃

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

- ・土地の境界、権利関係が明確になり、課税の適正化が図られる。
- ・災害発生時、座標数値から迅速な復旧が図られる。

3. C h e c k（評価：問題と課題）

未実施地区の事業着手について、今後検討が必要である。

4. A c t（改善：今後の方向性と28年度事業の概要）

現在事業を実施中の地区については、事業の実施方法等について改善しながら継続して事業を進めるとともに、未実施の地域を含めた全市の全体実施計画を策定した上で、優先度を見極め、効率的に調査を進めていく。

平成28年度事業概要

地域	事業費 (千円)	事 業 概 要	
		補助分	単独分
西仙北	6,511	第1 (A=0.11Km ²)	第2 (0.12Km ²)
協和	6,141	第1 (A=0.30Km ²)	第2 (0.21Km ²)
太田	14,946	第1 (A=0.24Km ²)	第2 (0.30Km ²)
計	27,598		

事 業 説 明 書

8 款 2 項 1 目 15 事業

(施策の大綱) 道路の整備

(施策) 市道の整備

(基本事業) 生活道路の整備

継続

課所名： 建設部 道路河川課

『事業名』 **市道敷地対策費**

【28年度】 **13,720** 千円 【27年度】 **6,457** 千円 【増減額】 **7,263** 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				13,720

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

平成27年4月1日現在の未登記2,346筆について、平成27年度中に78筆の解消見込みであり、残る2,268筆についても順次計画的に未登記解消を図る。

●目標：未登記解消 年間50筆

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

未登記を解消したことにより、公有財産が保全され、市民の不安も解消することができた。また、今後については、未登記解消の目処がついた箇所から実施していく。

3. C h e c k (評価：問題と課題)

未登記解消については、相続等の登記に関わる諸問題には膨大な経費と時間を要する場合がある。

これまで賃貸借契約により借用していた市道用地について、地権者から買収を求められるケースが発生してきているため、計画的な用地買収を視野に入れた検討が必要となる。

4. A c t (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

所有者及び法務局等関係機関と協力しながら、可能な限り早期の未登記解消を目指す。

地域	事業費 (千円)	事業概要
大曲	8,954	未登記解消14筆、借地料116件、用地買収1件
神岡	254	未登記解消2筆
西仙北	0	未登記解消2筆 (国土調査事業と併せて対応)
中仙	790	未登記解消4筆
協和	450	未登記解消3筆
南外	2,730	未登記解消21筆
仙北	307	未登記解消2筆
太田	235	未登記解消2筆
計	13,720	未登記解消50筆、借地料116件、用地買収1件

事 業 説 明 書

8 款 2 項 1 目 17 事業

(施策の大綱)道路の整備

(施策)市道の整備

(基本事業)生活道路の整備

継続

課所名：建設部 道路河川課

『事業名』 **道路情報管理システム整備事業費**

【28年度】 **66,460** 千円 【27年度】 **44,356** 千円 【増減額】 **22,104** 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
13,800			11,830	40,830

地域振興基金繰入金

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

市町村合併時からの課題である整備形態が地域毎に異なる道路台帳の見直しについて、統合、電子化及び効率的な維持管理を行うために道路情報管理システムを導入する。

- 目標：道路台帳管理システム構築完了（平成29年度運用開始）

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

- ・平成26年度より本事業に着手し、これまでの実績などは次のとおり。
- ・平成26年度：『統合型GIS基本計画策定業務』・『道路台帳統合化基礎調査業務』
- ・平成27年度：『道路台帳統合及び電子化業務』

業務期間：平成27～28年度 債務負担行為：平成28～36年度

3. Check (評価：問題と課題)

- ・新たに撮影した航空写真を基に座標を組み込んだデータを作成するとともに、上下水道及び都市計画に関する情報等を備えるシステムとなる計画であるため、導入後の効果が期待される。
- ・本業務実施時より、各地域の道路台帳補正を控えている現状にある。
適正な維持管理及び住民サービス向上のためにも早期に事業を完了させシステムを業務に活用させる必要がある。

4. Act (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

- 平成27年度より作成を進めているデータ作成と並行してシステム構築及び導入を進め、平成28年度末にシステムを稼働させる。

※下記のとおり本事業の見直しを図った。

- ・財源…これまでは全額一般財源により事業を行ってきたが、システム構築には国の社会資本整備総合交付金を活用し、一般財源の負担割合を軽減させた。
- ・社会資本整備総合交付金………国費充当率：60%

区分	予算額(千円)	備 考
道路台帳統合及び電子化業務	43,460	債務負担行為
道路台帳管理システム構築業務	23,000	社会資本整備総合交付金対象事業
計	66,460	

- 道路台帳システムでは、全市道路台帳の閲覧、道路占用事務及び道路修繕履歴等の管理を行うほか、蓄積された道路位置情報や航空写真を全庁的に活用できる統合型GISとしての運用を目指す。

事 業 説 明 書

8 款 2 項 2 目 10・11 事業

(施策の大綱) 道路の整備

(施策) 市道の整備

(基本事業) 生活道路の整備

継続

課所名： 建設部 道路河川課

『事業名』 **道路維持管理費(単独・債務負担行為)**

【28年度】	365,377 千円	【27年度】	329,667 千円	【増減額】	35,710 千円
単独	345,377 千円	【27年度】	309,667 千円	【増減額】	35,710 千円
債務負担	20,000 千円	【27年度】	20,000 千円	【増減額】	0 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		28,500	531	336,346

法定外公共用財産使用料

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

- ・市が管理する道路について、適切な道路パトロールを行うとともに損傷箇所への迅速な対応を行い安全な道路交通網を維持する。

●目標：パッチングによる道路修繕 560トン (厚さ3cm換算で約8,000㎡)

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

- ・定期的な日常パトロールを行い、都度必要に応じた対策を講じてライフラインである市道交通網の確保に努めてきた。
- ・加熱合材による狭隘道路舗装及びわだち・損傷部の補修舗装等について、市の直営舗装を行ってきた。

【直営舗装実績】

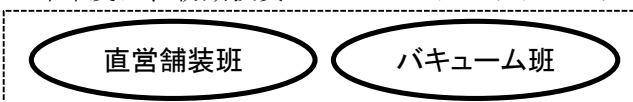
年度	路線数(路線)	舗装延長(km)
26年度	24	2,406
27年度	34	2,831
計	58	5,237

3. C h e c k (評価：問題と課題)

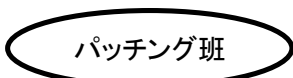
- ・複雑で広範囲に広がり、延長が3,000kmを超える市道を適切に管理するには、多くの労力と財源が必要であるが、現状ではいずれも不足している状況にある。
- ・これまでは、対処療法的に穴があったら埋め、損傷が少し大きかったらパッチング、さらに大きな損傷はオーバーレイ工事等の修復を行いながら道路の機能維持に努めてきたが、今後は予防保全的な維持管理が重要となっている。
- ・逼迫する財政状況の中、緊急性の低い生活道路では、工事实施の優先順位が低くなるため、直営舗装等の効率的な実施により修復スピードを加速させる必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

- これまで以上に入念な道路パトロールを行い維持管理に努めるとともに、導入予定の道路情報管理システム等を活用した道路損傷を確認するための新たな取組みを検討する。
- 市民から好評を得ている直営舗装に加え、新たに、パッチングによる舗装修繕を行う作業班(作業員6名)を編成し、市内全域の舗装修繕のスピードアップを図る。
今年度は、初期投資としてハンドガイドローラー等の機器及び運搬車等を整備する。



大曲を拠点に、全地域をカバー
(大曲地域の道路維持作業も実施)



【新規】中仙を拠点に、全地域をカバー(草刈り作業も実施)

事業説明書

8 款 2 項 2 目 12 事業

(施策の大綱) 雪対策の強化

(施策) 除雪、排雪の充実

(基本事業) 道路除排雪の充実

継続

課所名：建設部 道路河川課

『事業名』 除雪対策費

【28年度】 923,222 千円 【27年度】 92,930 千円 【増減額】 830,292 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
100,000	10,000		777	812,445

消雪施設電気使用料

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

将来にわたって安定的に冬期間の円滑な道路交通を確保し、市民生活の安全性や快適性の向上を実現するための効率的な除雪体制の構築を目指す。

- 目標：平成28年度 共同企業体 (JV) 化 8 地域

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

平成25年度 除雪単価の見直し(固定費、待機補償費の導入)

平成26年度 GPSを活用した除雪情報提供システムの本格稼働、多様な入札契約方式モデル事業により地域維持型除雪制度の検討

平成27年度 共同企業体化及び道路維持との包括発注の試行

3. Check (評価：問題と課題)

- ・ 除雪を支える地元建設業者は、公共事業の減少や景気の低迷等により工事が減少し建設機械の導入や雇用の確保が厳しい状況にあり、将来の除雪体制の維持に不安を抱えている。
- ・ 除雪オペレータの高齢化に伴い、個々のオペレータに蓄積されている技術や知識の継承が急務となっている。
- ・ 除雪業務委託は、効率的な除雪作業を行うため、随意契約により毎年同じ業者と契約締結しているが新規受注希望業者の出現により入札契約の透明性の確保が必要となっている。

4. Act (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

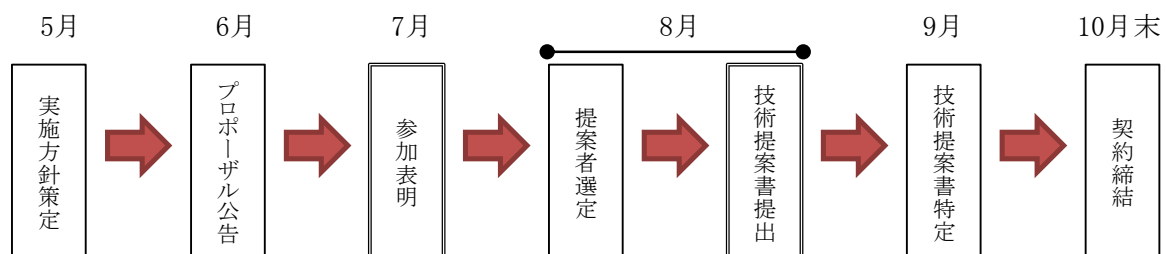
- 業務受注業者の共同企業体 (JV) 化を実施する。

- ・ 人員、機械の流動化により、作業の効率化を目指す。
- ・ 任意組合や個人経営では困難なオペレータの教育や技術・知識の共有化を目指す。
- ・ 共同企業体化による除雪業務の実効性を確保する。
- ・ 複数年契約や道路維持との包括発注により経営安定化を目指す。

- プロポーザルによる業者選定方式を導入する。

- ・ 特命随意契約方式から公募型プロポーザル(技術提案)方式に変更し、契約の透明性を確保する。
- ・ 業者選定まで、数ヶ月の期間を要するため、これまで9月補正予算計上していた除雪業務委託予算を当初予算で計上する。

【プロポーザルの主なスケジュール】



事 業 説 明 書

8 款 2 項 2 目 13 事業

(施策の大綱) 道路の整備

(施策) 市道の整備

(基本事業) 生活道路の整備

継続

課所名： 建設部 道路河川課

『事業名』 **道路維持管理費（社会資本整備総合交付金事業）**

【28年度】 106,000 千円 【27年度】 148,234 千円 【増減額】 △ 42,234 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
63,600		40,400		2,000

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

【目的】

老朽化が著しい幹線道路等の道路ストック（舗装、標識、法面構造物等）の点検を実施し、必要に応じて対策を講ずることにより、安全・安心な交通網を確保するとともにライフサイクルコストの低減を図る。

【目標】

路面性状調査結果等に基づく舗装修繕及び、道路ストックの点検実施及び対策措置

●目標数値

市道幹線路面修繕事業：6地域、9路線

道路ストック老朽化対策事業：標識・照明の点検実施、対策必要箇所の法面修繕実施（各年）

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

【路面修繕事業実績】

地 域	大 曲	神 岡	中 仙	仙 北	太 田
路 線 名	花館中央西線	荒屋ニタ子沢線	中仙8号線	仙北1号線	毘沙門川原線

交付金事業内で可能な限りの路面修繕を実施できた。

【道路ストック老朽化対策事業実績】

点検項目・工種	トンネル点検	大型カルバート点検	法面構造物点検	法面修繕詳細設計
箇 所 数	1 箇所	16 箇所	15 箇所	1 箇所

目標どおりの点検を実施し、対策が必要な箇所について詳細設計を実施している。

3. C h e c k（評価：問題と課題）

市道幹線路面修繕事業は路面性状調査等により、対象路線の「ひび割れ」及び「わだち掘れ」の状況を確認し、路面修繕を滞りなく実施している。

道路ストック老朽化対策事業については、標識・照明の点検の他、対策が必要な法面修繕箇所を継続的に実施する必要がある。

4. A c t（改善：今後の方向性と28年度事業の概要）

【路面修繕事業】

継続的に路面修繕を実施し、路線の重要性及び損傷度を考慮しながら計画的に路面修繕を実施することにより、良好な交通網を保持する。

※平成28年度実施予定箇所

地域	大 曲		神 岡	西 仙 北	中 仙		仙 北		太 田
路線名	花館中央西線	飯田線	坊ヶ沢戸月線	北野目戸川1号線	中仙8号線	中仙26号線	仙北1号線	仙北23号線	毘沙門川原線

【道路ストック老朽化対策事業】

道路施設の点検は、継続によりその効果を発揮することから、今後も継続し、更なる市道安全レベルの向上に努める。

※平成28年度実施予定箇所

点検項目・工種	標識・照明灯点検	法面修繕
箇所数等	標識:62基・照明灯:80基	(協和)宮田又線:1箇所

事 業 説 明 書

8 款 2 項 2 目 14 事業

(施策の大綱) 雪対策の強化

(施策) 除雪、排雪の充実

(基本事業) 除雪設備の充実

継続

課所名： 建設部 道路河川課

『事業名』 除雪機械購入費

【28年度】 122,000 千円 【27年度】 81,000 千円 【増減額】 41,000 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
80,000		40,000		2,000

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

冬期間の円滑な道路交通の確保に向けて、除雪機械の老朽化に伴う修繕費用及び修繕日数の増大を抑制するために、修繕費用、稼働実績及び耐用年数等の項目を考慮し優先順位を決めて更新する。

- 目標：平成35年度までに製造後15年超過除雪機械 5台(4.4%)以内

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

平成27年度実績 購入機械① 機 種：除雪ドーザ (13t級) 配 備：西仙北地域
 (2台) ※旧機械年式：昭和57年式 累積稼働：4,706hr(543日)
 購入機械② 機 種：除雪ドーザ (13t級) 配 備：太田地域
 ※旧機械年式：昭和57年式 累積稼働：2,418hr(391日)
 購入機械③ 機 種：凍結防止剤散布車 (3t級 2.5m³) 配 備：西仙北地域

平成27年度の更新目標は大曲地域、西仙北地域、太田地域の除雪ドーザ3台であったが、補助交付額の減少に伴い西仙北地域、太田地域の除雪ドーザ2台の更新となっている。

3. C h e c k (評価：問題と課題)

今後、社会資本整備総合交付金事業による雪寒機械の大幅な更新は厳しくなってくることが予測される。なお、市所有の除雪機械については、その半数以上が配備されてから15年以上を経過していることから、故障件数の増加と修理に要する日数及び修理費用の増大が課題となっている。

雪対策総合計画・道路除雪基本計画共に除雪機械の更新10台の目標を掲げているが、すべてを交付金事業による更新は困難であることも大きな課題となっている。

4. A c t (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

当該交付金事業を有効活用しながらロータリ除雪車や除雪グレーダ及び除雪ドーザ (13t級以上) 等の大型機械を優先的に更新する。また、凍結防止剤散布車や排雪用の小型バックホウ、ローダ (9t以下) については、広域的な利用を推進する。

なお、除雪業務受注業者の所有機械も効果的に活用しながら除雪機械の長期的な安定稼働を目指す。

平成28年度目標	機 種	配 備	旧 機 械 年 式	累 計 稼 働
(5台)	除雪ドーザ (14t級)	大曲	平成4年式	8,170hr (1,693日)
	除雪ドーザ (14t級)	神岡	平成2年式	2,627hr (408日)
	除雪ドーザ (14t級)	協和	昭和56年式	8,826hr (535日)
	ロータリ除雪車 (2.2m級)	南外	昭和61年式	12,030hr (1,460日)
	除雪トラック (7t級)	太田	平成11年式	3,176hr (583日)

事 業 説 明 書

8 款 2 項 4 目 32・40 事業

(施策の大綱)道路の整備

(施策)市道の整備

(基本事業)生活道路の整備

継続

課所名：建設部 道路河川課

課所名：建設部 都市管理課

『事業名』 道路改良事業費（単独・社会資本整備総合交付金事業）

【28年度】	257,212 千円	【27年度】	297,784 千円	【増減額】	△ 40,572 千円
単独	88,212 千円	【27年度】	143,284 千円	【増減額】	△ 55,072 千円
社会資本	169,000 千円	【27年度】	154,500 千円	【増減額】	14,500 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
101,400		119,200	9,000	20,812

地域振興基金繰入金

1. Plan（計画：事業の目的及び目標）

- ・市民生活や経済・社会活動を支える最も基本的なインフラである道路について、次の区分により必要箇所の整備を実施する。
 - 『幹線道路』：公共施設や都市機能に関連する交通利便性の向上を図る。
社会資本整備総合交付金等の国庫補助等を活用し事業を実施する。
 - 『生活道路』：各地域の実状を踏まえ、全市的な整備水準の統一化を進めつつ安全・快適性の向上を図る。
国庫補助等の対象とならない路線は市単独費での事業実施を前提とするが、常に市政面で有利な制度等を模索しながら事業を実施する。
- ・全国的に社会資本の長寿命化が課題となっていることから、長寿命化に寄与する一部改良事業を積極的に進める。 ●目標：平成28年度計画事業100%実施

2. Do（実行：これまでの実績と成果）

- ・地域間の連携強化や利便性向上に資する道路改良を行い、一定の効果を上げてきた。
- ・これまでの実績箇所の中には水害や雪害に効果を発揮している箇所もあり、市民生活の安全にも効果が発揮されていると考えられる。
 - 例) 南外1号線：雄物川増水時、冠水箇所対策
 - 市役所前通線：幅員狭小部の解消及び歩道融雪施設整備

3. Check（評価：問題と課題）

- ・多くの要望箇所に対して限られた予算の中で事業を実施する必要があるため、実施箇所の優先順位付けを行って事業を実施している現状にある。このため、場所によっては事業実施にいたるまで複数年の期間を要する。
- ・事業費設定に際し、建設コストのみを念頭に推し進めると早期に修繕を要する施設の構築になりがちな傾向がある。このため、事業による費用対効果及びライフサイクルコスト等を見据え、当初時点での事業方針及び工法設定等に多方面からの入念な検討を要する。

4. Act（改善：今後の方向性と28年度事業の概要）

- 市民からの多様化する要求・要望に対して、人口減少と高齢化を踏まえた道路整備の在り方を考慮しながら最も経済的な手法により対応する。
- 道路改良事業は、限りある予算を効果的かつ効率的に活用するため、道路整備に関する指針に基づき道路利用状況、安全性及び緊急性等から優先順位を判断し工事箇所を選定する。
- 市単独事業費の内訳は次のとおり。

区分	改良・舗装	側溝改良	測量試験	用地・補償	光電線移設	計
路線数(路線)	7	4	1	2	1	15
金額(千円)	54,336	22,229	2,964	7,968	715	88,212

- 社会資本整備総合交付金を用いた幹線道路の整備箇所は次のとおり。

大曲 ： 市役所前通線、大花戸地谷線	神岡 ： 坊ヶ沢戸月線
南外 ： 南外1号線、南外4号線、南外19号線	仙北 ： 仙北1号線、仙北21号線

事 業 説 明 書

8 款 2 項 6 目 15 事業

(施策の大綱)道路の整備

(施策)市道の整備

(基本事業)橋梁点検及び修繕計画書の策定

継続

課所名：建設部 道路河川課

『事業名』 **橋りょう長寿命化対策事業費（社会資本整備総合交付金事業）**

【28年度】 200,000 千円 【27年度】 232,766 千円 【増減額】 △ 32,766 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
120,000		80,000		0

1. Plan（計画：事業の目的及び目標）

- ・老朽化する橋梁の増大に対応するとともにライフサイクルコストの低減を図るため「橋梁長寿命化修繕計画」に基づいた「予防保全型」の管理を行い、健全な橋梁維持により安全・安心な交通網を確保する。
- ・橋梁点検結果を基に策定した「橋梁長寿命化計画」に基づき、管理橋梁の計画的な補修を実施する。
- ・道路法に関する省令で義務づけとなった5年に1度の近接目視による点検を全橋実施する。

●目標：管理橋梁の定期点検(1回/5年)を確実に実施する。（管理橋梁数：1,602橋）

2. Do（実行：これまでの実績と成果）

- ・『橋梁長寿命化修繕計画』
平成23年度より橋梁点検に着手し、平成25年度に対象を437橋とした修繕計画を策定
対象橋梁：「橋長15m以上」または「通行止により孤立世帯を生ずる橋梁」
- ・『橋梁補修・点検』
平成25年度 「設計」 館の橋（大曲）
平成26年度 「工事」 館の橋（大曲）
 「設計」 丸子橋（大曲） 坂の上橋（中仙）
平成27年度 「工事」 丸子橋（大曲） 坂の上橋（中仙）
 「設計」 川福橋（仙北） 川前橋（仙北） 暁橋（西仙北）
 「点検」 367橋（内、173橋は単独）
- ・平成26年度に工事を実施した「館の橋」は床版抜け落ち後の対症療法型であったが、以降は交通量及び損傷状況等の総合的な判断により優先順位を決定して対策を施す「予防保全型」の対策を行っている。

3. Check（評価：問題と課題）

- ・年間2～3橋の補修工事を実施しているが、本市の管理橋梁数を考慮すると更なる事業の効率化により、可能な限りの事業進捗を図る必要がある。
- ・千橋以上の橋梁を管理する本市では、5年に1回の定期点検に要する費用が大きな負担となる。
- ・中心市街地の活性化を図る本市では、路線により交通量が増大している路線があり、想定以上のペースで老朽化が進む可能性を持つ橋梁もあるため、「橋梁長寿命化修繕計画」「日常パトロール」「定期点検」の内容を総合的に判断し補修橋梁を選定する必要がある。
- ・管理橋梁には鉄道及び高速道路を跨ぐ橋が20橋ある。これらの点検は、JR東日本及びNEXCO東日本への委託により実施する必要があるが、委託費用が他の橋梁より高額となる。

4. Act（改善：今後の方向性と28年度事業の概要）

●平成28年度は社会資本整備総合交付金を活用し、次の事業を実施する。（補助率：事業費の60%）

- 『橋梁補修・点検』
「工事」 川福橋（仙北）橋長：44.5m 架設：昭和46年
 川前橋（仙北）橋長：91.0m 架設：昭和44年
 暁橋（西仙北）橋長：113.0m 架設：昭和52年
「設計」 3橋
「点検」 173橋

※下記のとおり本事業の見直しを図った。

- ・「橋梁点検」：橋梁点検車を必要としない橋長5m以下の橋梁は、職員の知識及び技能向上を図り、直営による点検を実施する。

事 業 説 明 書

8 款 2 項 8 目 1・2 事業

(施策の大綱)生活の安全・安心確保

(施策)交通安全の推進

(基本事業)交通環境の整備

継続

課所名： 建設部 道路河川課

『事業名』 交通安全施設整備費（単独・債務負担行為）

【28年度】	30,940 千円	【27年度】	28,500 千円	【増減額】	2,440 千円
単独	25,940 千円	【27年度】	23,500 千円	【増減額】	2,440 千円
債務負担	5,000 千円	【27年度】	5,000 千円	【増減額】	0 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				30,940

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

- ・道路等に設置されている交通安全施設の補修や危険箇所への設置を行い、道路交通に関する通行者及び車両の安全・安心を確保する。
- 目標：センターライン及び外側線の塗り替え更新
 目標頻度 センターライン：1回/2～3年
 外側線：1回/5年

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

- ・通常パトロールにより把握した交通安全施設の不具合箇所や、各地域の要望等に対して交通安全施設の修繕及び整備で対処できるものについては可能な限り実施しており、一定の効果を上げてきた。

3. C h e c k（評価：問題と課題）

- ・除雪により区画線が削られ消えてしまうため、中央線を2年に1回、外側線を5年に1回のペースで塗布することが望ましいが、現状では予算的な制約により交通量が多く危険な箇所を中心に塗布工事を実施している。
- ・照明灯については、殆ど防犯目的で設置を要望されることが多いため、関係機関、団体等と協議のうえ効率的な設置方法を検討する必要がある。

4. A c t（改善：今後の方向性と28年度事業の概要）

- 市民からの要望等を踏まえ、各地域の状況に応じた交通安全施設の整備を実施する。
- 防犯灯設置要綱（平成27年6月1日制定）に基づき、適切に防犯灯を設置していく。

【通常分】

区分	区画線	転落防止柵	防犯灯	カーブミラー	その他	計
事業量	60,410m	97m	27灯	6基		
金額(千円)	18,564	1,840	2,118	1,040	2,378	25,940

【債務負担行為分】

区分	区画線
事業量	22,000m
金額(千円)	5,000

事 業 説 明 書

8 款 2 項 8 目 6 事業

(施策の大綱)道路の整備

(施策)市道の整備

(基本事業)生活道路の整備

継続

課所名：建設部 道路河川課

『事業名』 **通学路歩道整備事業費（社会資本整備総合交付金事業）**

【28年度】 20,000 千円 【27年度】 69,000 千円 【増減額】 △ 49,000 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
12,000		7,600		400

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

- ・ これまでに実施した通学路緊急合同点検及び通学路安全パトロール等の結果を踏まえ、安全・安心な通学路を確保するために社会資本整備総合交付金を活用し、通学路を整備する。
- 目標：平成28年度計画事業100%実施

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

- ・ 平成24年度に実施した通学路緊急合同点検以降、点検及びパトロール等の結果を踏まえ、次の対策を実施してきた。
- ・ 『 追分板杭線 』（大曲）
平成25年度よりL=1,362mの通学路における歩行者空間整備を実施し、平成26年度に事業完了。
施工内容は、路肩拡幅により歩道帯を確保し、カラー舗装を施し通学路の安全性を向上させた。
- ・ 『 仙北1号線 』（仙北）
平成24年度に事業着手し、平成26年度までにL=700mの路線測量、詳細設計、用地調査及び横堀小学校前のL=900mの整備を実施。
平成27年度に移転補償及び一部用地買収を行い、L=160mの整備を実施
- ・ 『 久保関古館線 』（太田）
平成26年度に事業着手し、事業区間全体の路線測量及び詳細設計を実施。
平成27年度に第1工区L=1,200mの路床・路盤工を実施。

3. C h e c k（評価：問題と課題）

- ・ 基本的に路肩部を拡幅し歩道を設置する事業内容であるため、車両交通に影響を与えることなく歩道が設置され、通学路の安全性が向上している。
- ・ 両路線ともに整備区間延長が長く、事業完了に至るまで相応の期間を要する。

4. A c t（改善：今後の方向性と28年度事業の概要）

- 平成27年度までに実施してきた事業を継続し、安全な通学路の早期幹線を目指す。

両路線の平成28年度事業の概要は次のとおり。

『 仙北1号線 』
歩道整備工事：L=100m

『 久保関古館線 』
歩道整備工事（表層工・付帯施設）：L=250m

事業説明書

8 款 3 項 1 目 11 事業

(施策の大綱) 生活の基盤が整ったまちづくり

(施策) 計画的な開発の推進

(基本事業) 土地利用計画の推進

新規

課所名：建設部 都市管理課

『事業名』 都市計画マスタープラン等策定経費

【28年度】 7,928 千円 【27年度】 0 千円 【増減額】 7,928 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
3,964				3,964

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

立地適正化計画とは、居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等のさまざまな都市機能の誘導により、都市全域を見渡した都市計画マスタープランの高度化版である。当市においても人口の急激な減少や高齢化による都市機能の低下が喫緊の課題となっており、医療・福祉施設や公共施設、公共交通も含めた都市全体の構造を見直し、「コンパクトシティプラスネットワーク」のまちづくりを進めるものである。

●目標： 都市計画区域内人口の現状維持

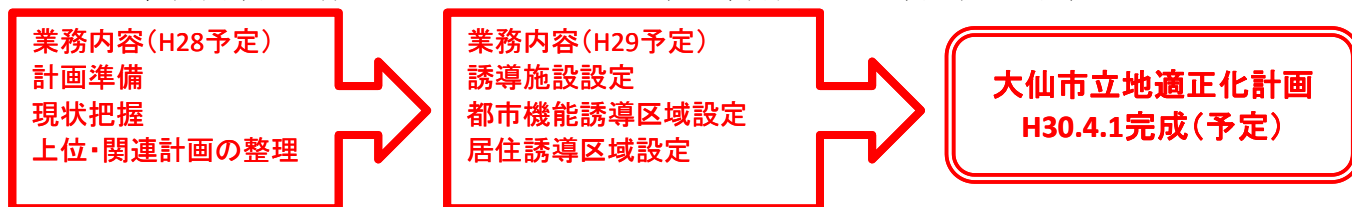
2. Do (実行：これまでの実績と成果)

3. Check (評価：問題と課題)

平成21年7月に策定した「大仙市都市計画マスタープラン」により、機能集約型都市へ向けたまちづくりの方向性を定めていることから、立地適正化計画の策定においても、方向性を踏襲し計画策定を目指す。また、本計画を策定することにより、コンパクトシティの形成に直接関係するものに限らず、様々な分野において活用できる国からの支援措置や嵩上げ等が期待できるため、都市計画に限らず関連する施策をより効果的に推進するためにも、本計画の策定を進める必要があると考える。なお、計画策定に当たっては居住や医療・福祉、商業等の都市機能の集約や誘導を含めて都市全体を考慮しながら策定を進める必要があることから、計画の策定段階からの庁内横断的な検討部会等の組織の設置を見据えた策定について検討を要する。

4. Act (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

立地適正化計画策定に係るタイムスケジュール (2ヵ年計画により策定する予定)



立地適正化計画策定業務委託

単位：千円

年度	節	業務内容	事業費	国費
H28	15	委託料 計画準備、現状把握、計画整理等	7,928	3,964
H29(予定)	15	委託料 誘導施設設定、機能誘導区域設定等	11,170	5,585
		合計	19,098	9,549

補助金名称：集約都市形成支援事業費補助金

※立地適正化計画の策定に関する経費の2分の1について補助対象とする補助金メニューを活用予定

事 業 説 明 書

8 款 4 項 1 目 11 事業

(施策の大綱) 住宅環境の整備

(施策) 住宅、宅地の整備

(基本事業) 市営住宅の整備・管理

継続

課所名：建設部 建築住宅課

『事業名』 **市営住宅維持管理費**

【28年度】 29,283 千円 【27年度】 35,342 千円 【増減額】 △ 6,059 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			29,283	0

市営住宅使用料 等

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

市営住宅の施設・設備を修繕し、周辺環境を整備することにより、入居者が安心・快適に過ごせるよう適性に管理する。

- 目標：市営住宅の退去修繕や入居者募集の事務を速やかに実施し、入居率100%を維持していく。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

建物、設備及び周辺環境を適正に維持管理していくことで新規入居や継続入居につながり、家賃収入等を確保することができている。

3. Check (評価：問題と課題)

施設の老朽化に伴い年々修繕費や工事費が増加しているが、市営住宅の適正な運営のため必要不可欠な事業であり、継続して行う必要があるが限られた予算で良質な住宅環境を整備するには国・県の交付金を活用し長寿命化を図る。

4. Act (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

○既存住宅を有効活用するためにも長寿命化を図り、維持管理費の抑制に努めたい。

■市営住宅の概況

地域	団地数	棟数	戸数	団地名
大曲	5	21	300	上大町、福見、船場、笑の口、【追加】大花都市再生住宅
神岡	1	3	48	神岡AD, EF, GH棟
西仙北	3	16	44	天神前(建替事業中)、愛宕、北ノ沢
中仙	1	6	12	グリーンタウン漆原
協和	6	45	85	境、野田、野田第2、野田第3、峰吉川、合貝(うち特公賃5戸)
南外	1	12	24	梨木田
太田	2	31	60	北部(さくら団地)(うち特公賃3戸)、南部(つつみ団地)(うち特公賃14戸)
計	19	134	573	

■予算の統一方針を図りつつ各地域事情に応じた予算科目に配慮した。

【修繕料】過去数年の実績を考慮し、各支所の一般修繕料を平等割：一律300千円及び戸数割：管理戸数×5千円、退去修繕料を管理戸数の1割程度×150千円として、各団地の要望に早急に対応できるようにした。

上記以外で費用が多額にかかる修繕箇所は優先順位をつけて別途考慮とした。

【大花都市再生住宅 1棟：52戸】28年度から市営住宅として管理する。

【主な修繕等】

- ・高架水槽解体(神岡)・・・571千円
- ・屋根塗装及び外壁張替(協和)・・・1,684千円
- ・屋根及び外壁塗装等(太田)・・・1,526千円

事 業 説 明 書

8 款 4 項 1 目 20 事業

(施策の大綱) 住宅環境の整備

(施策) 住宅、宅地の整備

(基本事業) バリアフリー化の推進

見直し

課所名： 建築住宅課

『事業名』 住宅リフォーム支援事業費

【28年度】 60,090 千円 【27年度】 69,097 千円 【増減額】 △ 9,007 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				60,090

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

住宅リフォーム工事を行う方に対して、財政的支援を実施することにより、居住環境の向上を図るとともに、合わせて経済活性化対策として市内住宅産業の活性化及び雇用の創出を図る。

- 目標： 合計400件 (環境対策) (目標件数)300件×(平均交付額)138,000円/件=41,400千円
(克雪・耐震化対策) (目標件数)100件×(平均交付額)186,000円/件=18,600千円

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

平成21年度途中から実施している当事業は、平成26年度までにのべ2,312件の申請を受けており、全体工事額は平成26年度までに累計60億円弱となっている。

【過去のリフォーム支援利用状況】 ※平成27年度は平成27年12月末現在。

	平成21～22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成27年度	
	申請件数 () 内は内数	463	453	495	411	490		476
	風害分 (112)			環境分 (355)		克雪分 (135)	環境分 (363)	克雪他 (113)
補助額(千円)	95,410	93,869	71,046	64,690	82,031		73,034	
全体工事額(千円)	1,307,276	1,252,096	1,146,485	1,069,306	1,160,488		1,013,761	

3. Check (評価：問題と課題)

現在もなお、問い合わせや相談事案が相次ぐことから当事業に対する市民ニーズは高い。現在は住生活基本計画をもとに実施している住生活ワークショップで検討を重ね、次の段階として現在の市民ニーズを勘案し、平成26年度以降、克雪対策工事や耐震化工事の拡充を図っている。

今後も現行の制度内容にとらわれることなく検討を重ね、補助対象工事や補助内容を精査し、必要に応じて拡充、見直しを図っていくことが必要であると考えられる。

4. Act (改善：今後の方向性と28年度事業の概要) ※下線部分が平成28年度変更点

- 環境対策等工事 (補助率10%、補助上限額20万円 ※子育て世帯改修工事を除く)
 - 環境対策工事 → 下水道、農集排又は浄化槽に接続する工事。
合わせてトイレや台所、風呂等の改修工事に対する補助。
 - 省エネ対象工事 → 床、壁、窓、屋根等を断熱化及び遮熱化する工事。
太陽光発電設備、省エネ型給湯器の設置等
 - バリアフリー化工事 → 居室、トイレ、浴室等の段差解消工事及び便器の洋式化、手すり設置工事等
 - 子育て世帯改修工事 → 18歳以下の3人以上の子と同居している親子世帯が環境対策等工事を行う場合を補助率15%、補助上限額30万へ拡充。
- 克雪対策化工事 (補助率15%、補助上限額30万円)
屋根の落雪防止器具や融雪装置設置等のほか、住宅敷地内の消雪・融雪敷設工事など、雪害を予防し雪に強い住宅を促進するための工事
- 耐震化工事 (補助率15%、補助上限額30万円)
平成12年5月31日以前に建築された木造住宅を改修する工事 (部分改修、耐震シェルターの導入を含む) を用いて、地震に強い住宅に改修する工事 (工事に伴う耐震診断、耐震設計、設計監理、工事監理は全て対象)

※ 平成28年度は交付決定額が当初予算額に到達次第、申請を打ち切りとする。

事 業 説 明 書

8 款 4 項 2 目 10 事業

(施策の大綱) 住宅環境の整備

(施策) 住宅、宅地の整備

(基本事業) 市営住宅の整備・管理

継続

課所名：建設部 建築住宅課

『事業名』 **地域住宅整備事業費**

【28年度】 **93,508 千円** 【27年度】 **135,372 千円** 【増減額】 **△ 41,864 千円**

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
42,121		51,300		87

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

大仙市公営住宅等長寿命化計画等に基づき、安全で快適な住まいを長期的に確保するため、予防保全的観点から修繕や改善の計画を定め、市営住宅の長寿命化等による更新コストの削減と整備事業費の平均化を図る。

●目標：ライフサイクルコストの削減に努めながら、施設の耐用年数である非木造70年、木造30年間供用できるように適正に更新及び維持管理していく。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

建物、設備及び周辺環境を適正に整備していくことで長寿命化を図ることにより新規入居や継続入居につながり、家賃収入等を確保することができている。

■これまでの事業（社会資本整備総合交付金を活用）

- ・福見町市営住宅外壁等改修事業 160,481千円 【H24～25】
- ・愛宕市営住宅屋上防水改修事業 11,450千円 【H24～25】
- ・上大町市営住宅耐震改修事業 68,077千円 【H24～26】

3. Check (評価：問題と課題)

施設の老朽化に伴い年々修繕費や工事費が増加しているが、市営住宅の適正な運営のため必要不可欠な事業であり、継続して行う必要があるが限られた予算で良質な住宅環境を整備するには国・県の交付金を活用し長寿命化を図る。

4. Act (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

■天神前市営住宅建替事業（補助率45%、50%）

老朽化に伴い建替を実施し、現在の23戸から14戸に変更する。

25年度	1,518千円	建替えに伴う移転補償（10戸分）【実績】	
26年度	656千円	建替えに伴う移転補償（5戸分）【実績】	
	9,259千円	基本設計、実施設計、各種手数料等【実績】	
27年度	135,372千円	解体工事、新築工事、外構工事、設計監理、工事監理	
	(事業中)	建替えに伴う移転補償（10戸分）	
28年度	93,508千円	解体工事（3棟）	6,341千円
		新築工事（2棟6戸）	70,516千円
		外構工事	13,284千円
		設計監理・工事監理	2,413千円
		建替えに伴う移転補償（5戸分）	868千円
		各種手数料 等	86千円

事 業 説 明 書

8 款 7 項 1 目 10 事業

(施策の大綱) 公園・緑地の整備

(施策) 公園・緑地の整備、緑化の推進

(基本事業) 維持管理の充実

継続

課所名：建設部 都市管理課

『事業名』 **公園維持管理費**

【28年度】 **83,461 千円** 【27年度】 **75,488 千円** 【増減額】 **7,973 千円**

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			2,239	81,222
公園使用料 等				

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

公園利用者が安全かつ快適に過ごせるよう公園及び緑地の維持管理を適正に行い、施設の安全性と利便性の向上に努めるとともに、都市環境の整備、緑地の保全、利用者の憩いの場の創出を図ることにより、市民福祉の向上と健康の増進に寄与する。

- 目標：公園施設に起因する事故発生件数 0

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

公園における事故の未然防止の観点から、経年劣化した施設の修繕などの維持管理を適正に行い、市民の憩いの場として利用されている。

○地域別内訳

(単位：千円)

地域	H27予算額	H28予算額	比較	公園数 (市公園条例)					公園面積 (ha)
				一般	街区	農村	※その他	計	
大 曲	39,751	36,653	△ 3,098	6	18	3	7	34	126.85
神 岡	7,694	7,116	△ 578	2	0	3	1	6	19.00
西仙北	2,197	1,795	△ 402	2	0	9	0	11	12.54
中 仙	8,931	23,371	14,440	7	0	4	0	11	216.60
協 和	5,316	5,035	△ 281	4	0	6	0	10	7.43
南 外	3,673	3,075	△ 598	1	0	2	0	3	21.96
仙 北	1,680	1,530	△ 150	3	0	3	1	7	15.98
太 田	6,246	4,886	△ 1,360	3	0	17	0	20	12.10
合計	75,488	83,461	7,973	28	18	47	9	102	432.46

※その他：大曲：近隣公園1、地区公園2、総合公園1、都市緑地3 神岡：地区公園1 仙北：地区公園1

3. Check (評価：問題と課題)

事業内容を精査し必要最低限のコストで公園の維持管理を行っている。現状を維持しながら公園に対する市民ニーズの把握と事故防止に努めるとともに、市民が快適かつ安心して利用出来る公園管理を行っていく必要がある。

4. Act (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

平成28年度は、中仙地域の八乙女公園の展望台駐車場から頂上展望台までの遊歩道が経年劣化による木部腐食及び木橋破損が著しいことから、安全確保のために遊歩道改修工事を実施する。

平成27年度に大曲駅前第二地区土地区画整理事業で整備した街区公園3箇所及び大曲通町地区第一種市街地再開発事業の関連社会資本整備事業で整備したねむのき公園については、草刈り、芝刈り、施肥等の作業を市直営で行い維持管理経費の増加を抑制する。

また、今後の各公園施設における維持管理のあり方について検討し、公園施設毎のマネジメント計画を策定し、平成28年度末策定予定の大仙市公共施設等総合管理計画に反映させる。

○ 八乙女公園遊歩道改修事業

- ・木橋と木柵の解体撤去及び新設 (木橋1号L=23.1m、木橋2号L=41.4m、木柵L=30.0m) 15,600 千円
- ・縁木の解体撤去 (L=401.4m) 314 千円

事業説明書

8 款 7 項 3 目 11 事業

(施策の大綱) 公園・緑地の整備

(施策) 公園・緑地の整備、緑化の推進

(基本事業) 維持管理の充実

継続

課所名：建設部 都市管理課

『事業名』 **河川公園管理費**

【28年度】 13,099 千円 【27年度】 13,859 千円 【増減額】 △ 760 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				13,099

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

河川公園利用者が安全かつ快適に過ごせるよう河川公園緑地の維持管理を適正に行い、河川環境の保全と施設の安全確保に努めるとともに、良好な自然景観を維持することにより利用者の憩いの場の創出を図り、市民福祉の向上と健康の増進に寄与する。

- 目標：河川公園施設に起因する事故発生件数 0

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

河川公園の草刈り、芝刈り、樹木剪定、トイレ清掃、ごみ処理、病虫害防除、浄化槽管理及び施設修繕等の維持管理を適正に行い、市民の憩いの場として利用されている。

○地域別内訳

単位：千円

地域	施設名称	備考	H27予算額	H28予算額	比較
大曲	雄物川河川緑地運動公園	▶	10,286	11,432	1,146
	丸子川河川緑地				
	福部内川河川緑地				
	水辺の楽校				
	出川河川公園				
中仙	大神成河川公園	斉内川上下流	2,692	916	△ 1,776
	栗沢河川公園				
太田	斉内川河川公園	チビッコ広場、木もれび広場	881	751	△ 130
			13,859	13,099	△ 760

3. Check (評価：問題と課題)

事業内容を精査し必要最低限のコストで河川公園の維持管理を行っている。今後とも河川公園の利用者ニーズの把握と事故防止に努めるとともに、経年劣化による施設の老朽化も進んでいることから維持管理を適正に行っていく必要がある。

4. Act (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

これまで業者委託していた河川公園管理業務の見直しにより、平成28年度より大曲地域の丸子川河川緑地の草刈り業務を市直営で行うとともに、中仙地域の栗沢河川公園及び大神成河川公園管理業務の大半を市直営で行うことにより経費の削減を図る。

また、大曲地域の雄物川河川緑地の草刈りに使用している老朽化したトラクター1台を更新する。

- 雄物川河川緑地草刈用トラクター購入費 2,300 千円

事 業 説 明 書

8 款 7 項 4 目 10 事業

(施策の大綱) 公園・緑地の整備

(施策) 公園・緑地の整備、緑化の推進

(基本事業) 維持管理の充実

継続

課所名：建設部 都市管理課

『事業名』 **市民ゴルフ場管理運営費**

【28年度】 **42,823 千円** 【27年度】 **39,792 千円** 【増減額】 **3,031 千円**

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			37,375	5,448

市民ゴルフ場使用料

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

国土交通省から河川占用許可を受け雄物川河川緑地をゴルフ場として運営することにより、ゴルフを通じて市民の健康増進を図るとともに、利用者が安全かつ快適にプレーしていただくよう適切に施設の維持管理を行うことにより利用者数の安定確保に努め、大仙市民ゴルフ場の管理運営を委託する株式会社大曲スポーツセンターが持続して経営できるように努力を促す。

- 目標：平成28年度市民ゴルフ場利用者数13,800人以上

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

平成27年度は新規コンペの獲得、プレミアムゴルフプレー券の販売促進などの営業努力に加え12月の好天及び暖冬の影響で、前年度比12.0%増の14,153人(12月末実績値)の利用者数で推移している。

年度	利用者数	前年度比 (利用者数)	営業日数	1日平均	使用料収入	前年度比 (使用料収入)
H22	11,427人	-	246日	46.5人	28,736,240円	-
H23	11,489人	100.5%	226日	50.8人	29,978,830円	104.3%
H24	11,871人	103.3%	228日	52.1人	30,959,610円	103.3%
H25	11,548人	97.3%	223日	51.8人	30,720,990円	99.2%
H26	12,736人	110.3%	232日	54.9人	34,405,040円	112.0%
H27(見込)	14,310人	112.4%	266日	53.8人	41,165,120円	119.6%

3. Check (評価：問題と課題)

スポーツの嗜好性や天候に左右される事業であることから、市民ニーズや他のゴルフ場動向等も注視しながら、引き続き利用者が快適にプレーできる環境づくりに努めるとともに、事故が起きることがないように安全性と利便性の向上を図りながら適正な管理運営を継続していく必要がある。

4. Act (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

市民の健康増進の場として高齢者の利用が多い施設であることから、利用者により快適にプレーしていただくように、平成28年度は、場内施設のトイレ改修、カート路新設及び乗用カートの更新を行う。
また、利用者数の安定確保のために、今後とも計画的に施設等の整備を継続して、クオリティの高いコースづくりに努めなければならない。

- 市民ゴルフ場管理運営業務 42,067千円
 - ・ゴルフ場の管理運営全般、コースの整備及び事故防止等の管理業務、利用料金収納業務等
 - ・スタートハウストイレ改修(4棟、和式→洋式)
 - ・No.3カート路新設(L=140.0m, W=2.0m)

- 乗用カート購入費 756千円
 - ・中古乗用カート(3台)購入費

事 業 説 明 書

9 款 1 項 4 目 11 事業

(施策の大綱) 生活の安全、安心確保

(施策) 消防、防災の充実

(基本事業) 防災体制の充実、強化

継続

課所名： 建設部 道路河川課

『事業名』 **水害対策費**

【28年度】 **44,399** 千円 【27年度】 **34,200** 千円 【増減額】 **10,199** 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				44,399

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

平成23年6月24日の局部的集中豪雨により、市内において多大な被害を受けたことにより、平成23年度から秋田県による一級河川福部内川の河川改修事業に伴い、大曲福見町から大曲若葉町間に3箇所排水機場を整備し内水排除による水害防止を目的とする。

- 目標：平成28年度計画事業100%実施

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

《平成25年度》

福部内川支川(3排水区) 内水処理計画策定業務委託・・・4,620千円

《平成26年度》

福部内川支川(福見町排水区) 揚水機場詳細設計業務委託・・・3,769千円

《平成27年度》

福部内川支川(支川1号排水区) 揚水機場詳細設計業務委託・・・3,499千円

福部内川支川(福見町排水区) 揚水機場設置工事・・・25,056千円

- ・排水ポンプ N=φ300×2台
- ・送水管・送水管ピット N=φ300×1本
- ・吸水槽 N=1基
- ・ポンプ制御盤 N=1台

3. C h e c k (評価：問題と課題)

・水害を未然に防ぐ対策を講ずることが最重要であるが、災害規模(確立年)を見極めながら費用対効果の高い施設の工法や規模を決定する必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

《今後の方向性》

秋田県と本市で一級河川福部内川の河川改修事業の手法について、地域住民と一体となり検討を進めてきた。

引き続き、具体的な整備計画について、県及び関係機関と財源確保・維持管理等の詳細な協議を進めていく必要がある。

《平成28年度事業》

福部内川支川(支排1号排水区) 揚水機場設置工事

- ・排水ポンプ N=φ500×1台
- ・送水管・送水管ピット N=φ500×1本
- ・吸水槽 N=1基
- ・ポンプ制御装置 N=1台

事 業 説 明 書

(土地区画整理事業特別会計)

1 款 1 項 1 目 10・11 事業

(施策の大綱) 市街地の整備

(施策) 良好なまちづくりの推進

(基本事業) 土地区画整理事業の推進

継続

課所名：建設部 土地区画整理事務所

『事業名』 大曲駅前第二地区土地区画整理事業 (補助・単独)

【28年度】	124,796 千円	【27年度】	408,095 千円	【増減額】	△ 283,299 千円
補助	122,000 千円	【27年度】	389,000 千円	【増減額】	△ 267,000 千円
単独	2,796 千円	【27年度】	19,095 千円	【増減額】	△ 16,299 千円

※28年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
73,200		46,300		5,296

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

大曲駅前第二地区は、市の中心市街地で商店街や住宅地域で構成されているが、公共施設の整備の遅れから土地の利用状況が極めて悪く、新幹線開通による交通の利便性や商業交流拠点地区の地区特性を十分活用していない状況であり、早急な基盤整備が望まれる地区である。

このため、土地区画整理事業により道路、水路及び公園等の公共施設を整備し、交通の円滑化、歩行者の安全確保に努めながら、賑わいのある商店街の形成、宅地の利用増進と災害に備えた安全な都市基盤の整備を図り、中心市街地の再生を図るものである。

●目標：平成28年度末事業進捗率(事業費ベース) 99.5%以上

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

本事業により、公共施設が整備されたことに伴い、利便性の高い中心市街地の形成が図られてきた。

【年度別事業進捗率(事業費ベース)】 総事業費 29,050,000千円

H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
63.7%	72.4%	78.2%	81.1%	84.8%	87.6%	91.1%	93.5%	96.7%	98.3%

※平成27年度末予想進捗率
99.2%

3. Check (評価：問題と課題)

平成元年度から着手した本事業は、総事業費や年次計画の見直し等を行い、事業期間を2回延伸してきた。ハード事業が平成27年度で終了し、平成28年度が補助事業最終年度となるため、残事業を滞りなく実施し、事業を完成する必要がある。

4. Act (改善：今後の方向性と28年度事業の概要)

平成28年度より換地処分に向けた事務作業に入り、平成33年度までに完了事務を含め全ての事業を完成させる計画である。

※H28年度 事業概要

(単位：千円)

大事業	事業概要	事業費	用地補償費	換地諸費
補助分	事業計画・実施計画変更業務委託 換地処分業務委託 区画整理登記業務委託 租税特別措置法説明資料作成業務委託 清算金徴収・交付事務委託	122,000	0	122,000
単独分	仮住居補償・土地損失補償 審議委員報酬・土地評価員報酬	2,796	2,582	214
合計		124,796	2,582	122,214

※H28年度 財源内訳

(単位：千円)

大事業	事業費	国費	市債	一般財源
補助分	122,000	73,200	46,300	2,500
単独分	2,796	0	0	2,796
合計	124,796	73,200	46,300	5,296